

2-2. 普天間飛行場の跡地を考える若手の会、地権者への取組み

取組み方針①：若手の会の組織強化を目指し、若い世代の人材育成を行うと共に、有識者検討会議に対して、会としての考えを取りまとめ発信する。

取組み方針②：地権者に対し、中間取りまとめ以降の検討内容に関する情報提供と知識の習得、跡地利用計画に対する興味・関心を促す。

(1) 若手の会の定例会活動支援

1) 取組み概要

今年度の検討テーマである「土地利用及び機能導入の方針」の中でも、「振興拠点ゾーン」については新たな視点としての追加内容が多く、若手の会として検討が必要という考えから、振興拠点ゾーンの都市像と空間形成の考え方について、地権者及びまちづくりの視点を踏まえ取りまとめた。

また、昨年度に引き続き、若手の会の将来あるべき姿について意見交換を行い、若手の会会員への意識づけを行うと共に、現時点の課題及び今後必要な取組みに関する議論を促した。

合わせて、若手の会の活動を周知するために平成 26 年度に制作した活動内容パンフレットについても、内容の更新に向けて意見交換を行った。

なお、定例会の検討状況に関しては、ニュースレターとして若手の会会員に対して情報発信を行った。(令和 2 年 11 月 vol.1 発行。令和 3 年 3 月 vol.2 発行)

2) 取組みスケジュール

No	開催日	議題
1	6 月 9 日	・今年度の取組みについて ・若手の会の将来あるべき姿について
2	7 月 14 日	・振興拠点ゾーンの将来像について ・地権者意見交換会について ・若手の会の将来あるべき姿について
3	8 月 11 日	・振興拠点ゾーンの将来像について ・若手の会の将来あるべき姿について
4	9 月 8 日	・振興拠点ゾーンの空間のあり方について ・地権者意見交換会について ・若手の会の将来あるべき姿について
5	10 月 13 日	・先進地事例を踏まえた空間イメージについて ・地権者意見交換会に代わるアンケートの実施について ・若手の会の将来あるべき姿について

No	開催日	議題
6	11月10日	・振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え ・若手の会の将来あるべき姿について
7	12月8日	・振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え ・次の検討テーマについて ・若手の会の将来あるべき姿について
8	1月12日	・若手の会パンフレット更新について
9	2月9日	・次の検討テーマについて ・若手の会パンフレット更新について
10	3月9日	・今年度を振り返って（課題と今後の取組み） ・若手の会案内チラシについて ・若手の会パンフレット更新案について



写真：定例会の様子①



写真：定例会の様子②



写真：定例会の様子③

3) 若手の会の考える「振興拠点ゾーンの将来像」まとめ

振興拠点ゾーンの将来像に関する「若手の会」の考え

平成31年度、第10回定例会において、次回検討テーマとして、「土地利用及び機能導入の方針」とすることを決定。同時に意見を決定、「現時点では決まっていなかった部分が多いので議論しづらいのではないか。」
 「振興拠点ゾーン」については、新たな視点として追加された内容が多く、地主として検討が必要。
 求められる役割が示された段階であり、まちの将来像がイメージできる検討は進んでいない。

そこで、令和2年度の定例会においては、以下の3つの視点で、振興拠点ゾーンの機能像と空間像について、検討しました。

検討のポイント

- 「振興拠点ゾーン」の街は、誰がつかうことを想定した空間か？
- 働く人・訪れる人・周辺に住む人は、この空間でどのように過ごすのか？
- この空間での暮らし・営みを支えるには、どのような機能が必要か？

⇒ 「求められる機能像」「求められる空間像」「将来像実現に必要な土地利用の手法」を検討

振興拠点ゾーンの都市像

振興拠点ゾーンは、定例会でのご意見を踏まえ、産業集積地として、「オフィスや研究施設が集積する地域だけ」ではなく、「働く人、訪れる人、暮らす人が交流し、楽しめる街であること」を基本的な考え方として将来都市像を描く



～令和2年度の「若手の会」検討経緯～

時期	定例会内容（主な検討事項）
6月	今年度の取組みについて、若手の会の提案あるべき案について
7月	振興拠点ゾーンの将来像について
8月	振興拠点ゾーンの空間のあり方について
9月	先導地事例を踏まえ空間イメージについて
10月	振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え
11月	振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え
12月	若手の会の将来あるべき案について
1月	若手の会ハンズオン更新について
2月	次の検討テーマについて
3月	年度総括

振興拠点ゾーンの空間形成の考え方

振興拠点ゾーンに求める空間形成の考え方
(例)

Education and Entertainment 働く・学ぶ・遊ぶための場づくり

- 街中で研究・実証実験等が出来る街
- 海外からの研究者も休みに働ける国際出身の街
- 異業種や仕事仲間、学生等と交流出来る街
- 研究成果や開発成果を発信する、学べる街
- 研究から文化・芸術・娯楽、飲食、買い物まで様々な用途や機能が並存し「単調でない」街
- 周辺での暮らしも便利な街

Mobility 快適な移動空間の形成

- 公共交通の利便性が高く、歩行者に優しい街（トランジットモール）
- 地味から、快適にアクセスできる街
- 次世代型交通を始め、様々な移動手段の選択があり、それらを便利に使いこなせる街
- 環境にやさしくクリーンで騒音の無い交通環境

Green Infrastructure and Local Culture 憩い・リフレッシュできる空間づくり

- 身近に多くの緑や水辺の歴史文化を学べる機会があることで、憩い・リフレッシュできる街
- 体を動かすなどで環境を活性化させられる街
- 多くの緑や自然エネルギーを活用することで、エコでクリーンな街

Resilience 安心・安全な環境づくり

- 大雨・台風を始め、様々な都市災害に備えたインフラ・都市景観
- エネルギーの地産地消やグリーン調達により持続性の高い街
- 災害時にも事業継続性があり、相互に助け合える街
- 夜間も安心な防犯性の高い街

公共空間も民有地も連続的に活用できる空間づくり

公園内や道路敷地にカフェのオーブンアラースが設置される等、公共/民有の空間がポータリティに活用される街



視点を定めて、開放的な眺望を確保する空間づくり

高台からの開放的な眺望や、眺められる見どころを確保し、良好な景観及び開放的な空間がある街



人の回遊性を高め、まちを歩きながら空間づくり

歩行者に優しく、緑が多く、歩きながらの工夫・仕掛けが施された街

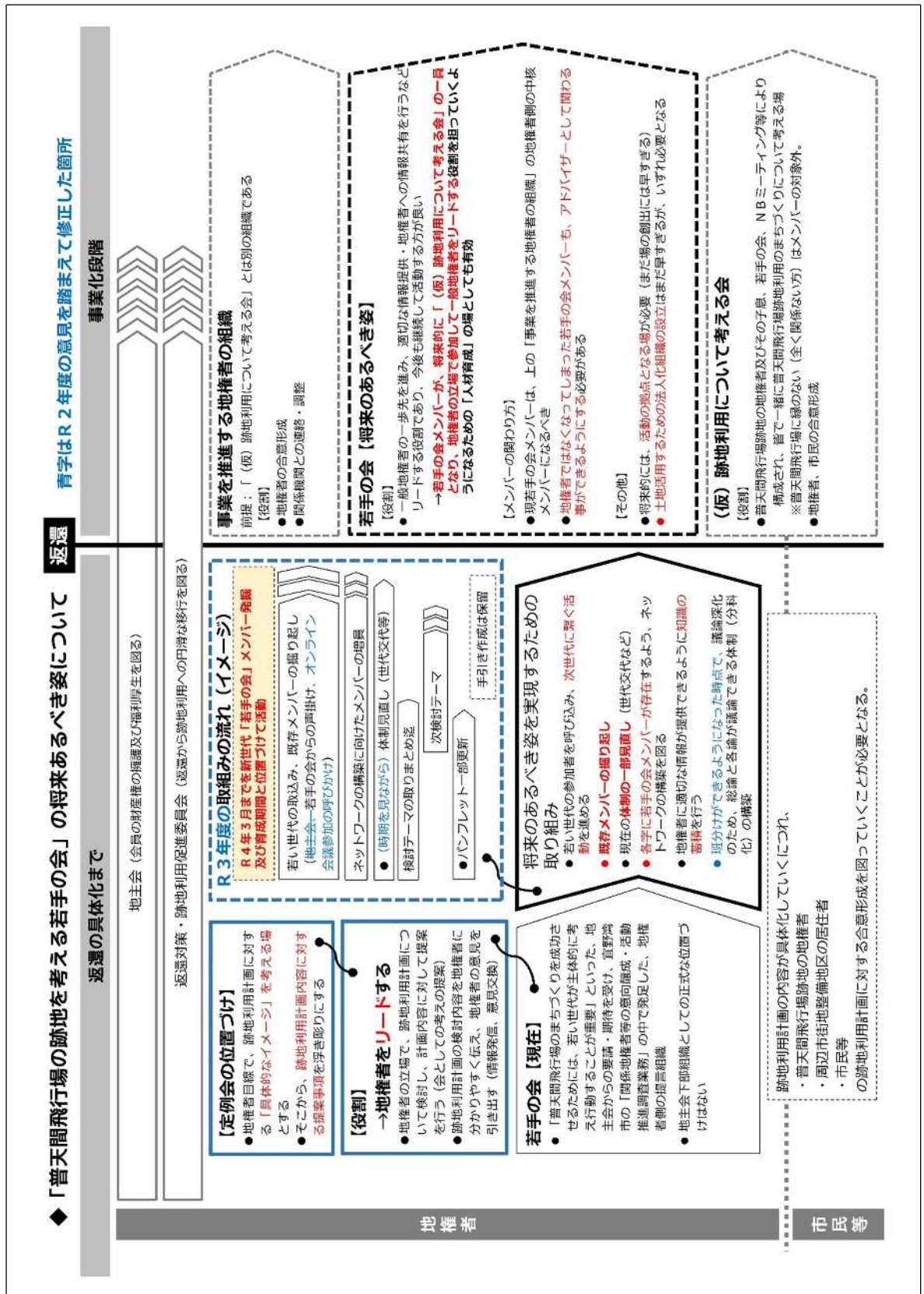


沖縄・普天間の歴史や地域性を感ずる空間づくり

随所に沖縄や普天間の地域性・歴史・文化を感じることが出来る街



4) 「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」の将来あるべき姿について（継続検討中）



5) 若手の会ニュースレター

ニュースレター

若手の会

Vol. 1

2020.11月発行

彦野湾市基地区域部まちづくり課

【定例会に参加できなかったメンバーの方に対して、数か月分の若手の会で検討した内容をご紹介しますために発行します。】

昨年度の第10回定例会において、次回検討テーマを「土地利用及び機能導入の方針」とすることに決定しました。
 「現時点では決まっていなかった部分が多く議論しづらいが、振興拠点ゾーンについては、新たな視点として追加された内容が多く、検討が必要ではないか」というご意見もあり、今年度は特に「振興拠点ゾーン」に焦点を当てて、将来像の検討を進めています。あわせて、「若手の会の将来あるべき姿」についても検討を進めています。

第2回 定例会 (R2.7.14)

【求められる機能を踏まえた「空間イメージ」について】

①誰がつかうことを想定した空間か？ ～年代 / 主な目的 / 世帯構成～
 ②どのように過ごす空間か？ ～それぞれのターゲットの1日の行動を想定～
 ③人々の暮らし・営みを支えるどのような機能が必要か？

「振興拠点ゾーン」において想定される人々の暮らし・営みから、街の空間イメージを検討し、まちづくりを進める上で重要なテーマを整理することとあわせて、「必要な機能像」についても、検討を行いました。

■地区内または周辺に住む人・遠くから訪れる人

■地区内で働く人（研究者・オフィスワーカー）・学生（留学生等）

2グループに分かれてワークショップ（WS）を実施しました。

【主な意見】

《憩いの場に関する意見》
 ◆運動スペースが目的別に分けられている。（ジョギング・ウォーキング等）
 （住民、来訪者G）
 ◆ヨーロッパのように、オープンカフェでリラックスできる空間があるとよい。
 法からの規制 緩和が必要である。（就労、学生G）

《イベントに関する意見》
 ◆企業と連携したイベントを開催して楽しむ事ができるとよい。（住民、来訪者G）

《道路空間に関する意見》
 ◆振興拠点エリア内には駐車場を配設せず、駐車場から施設まで歩いて楽しむことができる空間となればよい。（住民、来訪者G）

《商業施設に関する意見》
 ◆沖縄独自の文化を体験できる施設があるとよい。（住民、来訪者G）

《歴史・文教施設に関する意見》
 ◆魚道の平和祈念資料館のように、修学旅行で普天間の歴史を学ぶことのできる施設があるとよい（住民、来訪者G）

第2回 定例会の様子

第3回 定例会 (R2.8.11)

第2回のワークショップの結果をもとに、関連した全国・世界の事例などについてご意見を頂きました。

小規模・多用途・オープンな空間

①外に出てオープンな空間づくり
 通りや広場に面した建物1階部分をカフェやコワーキングなどにすることで街に活気がある事例
 （オレゴンポートランド市）

緑あふれる憩い空間の形成

②「質の高い緑」で空間や施設を結ぶ
 駅から駅周辺の様々な施設に移動するにあたり、多品種で構成された質の高い緑化空間の通りになっている事例
 （東京駅前緑地）

人中心の次世代型アクセス環境

③民地帯と一体となった歩行空間でゆとりある環境形成
 歩道だけでなく民地帯も一体となった歩行空間を確保することで、快適な歩行環境を形成するだけでなく、広さの無い歩道を形成している事例
 （静岡浜岡駅周辺）

環境性能の高い基盤づくり

④街の連続性・浸透性を高め都市部市に備えた環境形成
 道路上の雨水排水を活用した植樹帯「レーンガーデン」により都市の透透性を高めている事例
 （ニューヨーク市）

【主な意見】

◆街が展開する大きな空間の1つは、域内及び域内に至るまでの移動の利便性が大きいと考えられる。合わせて公園や緑などの安心・安全や憩いの場を人は求める。緑（森）が街の景観、居住環境、安心・安全、企業の従業員意欲などに関与するの、外観をはじめとする先進地事例を学びながら考えたい。

第4回 定例会 (R2.9.8)

振興拠点ゾーンの将来都市像を実現するための具体的な空間のイメージとして、先進地視察先の事例を紹介し、空間イメージについて「参考にしたい点・もっと知りたい点・振興拠点ゾーンのイメージと異なる点等」のご意見を頂きました。

①歩きたくなるまち

②人が集まるまち

③健康になれるまち





【主な意見】

◆大雨・台風を始め、様々な都市災害に備えたインフラ・都市基盤として防災公園も造りたい。

第5回 定例会 (R2.10.13)

先進地視察会の概要報告と現地動画を視聴し、先進地の知識を共有しました。

- 1. 北大阪健康医療都市（健都）**
 吹田市市民病院や国立循環器病センターと連携し、街中では研究・実証実験を行っており、健都レールサイド公園は病院が監修を行って設計されています。地区内は緑が多く、各施設のサイン計画が統一され、まち歩きがすっきりしています。
- 2. こども本の森 中之島**
 1階～3階まで本でいっぱいなのは、図書館というよりは本に囲まれた文化施設であり、こどもの感性を育む空間です。
- 3. てんしば**
 天王寺公園のエントランス部分を、近鉄不動産（株）がリニューアルしました。天王寺区と阿倍野区、通天閣周辺の3つのエリア間で人の流れが生み出されることにより、周辺地域の活性化にもつながっています。
- 4. うめきた地区（グランフロント大阪）**
 グランフロント大阪は知的創造拠点「ナレッジキャピタル」を核とし商業施設、オフィス、ホテル、住宅から構成されています。うめきた広場では、水を活かした空間演出を取り入れており、暑い夏でも涼しさを味わうことができます。また、歩道上にオープンカフェを設置することで、「歩いて楽しい」「飲食店と一体となった空間」をつくり、地区全体が魅力的なまちとなっています。
- 5. 神戸医療産業都市**
 「シミュレーション・クラスター」「バイオ・クラスター」「メディカル・クラスター」の3エリアに分かれており、それぞれが連携できる仕組みがつけられています。民間企業所有のビルであっても、神戸市が誘致を行っており、官民の分け隔てなく誘致するスタイルをとっています。
- 6. 神戸まちづくり研究所**
 2000年3月にNPO法人の認証を受け、地域コミュニティ施策の見直しを行政に提案し、地域プラットフォーム形成を行っています。また、地域でまちづくりを行う団体のサポートを行い、地域を盛り上げ、人との関係性の構築を目指しています。

若手の会の将来あるべき姿について

将来あるべき姿に向け、今後どのような取組が必要なのか継続して検討を進めています。過去の定例会で出た意見をご紹介致します。

【第1回定例会】

- ・組織の役割を明確に新に任命してはどうか。
- ・会の活性化を図るため正副会長の交代も検討してはどうか。
- ・新規メンバーの獲得も図りながら、現メンバーの掘り起こしが必要ではないか。
- ・定例会を土・日に開催してはどうか。平日参加が難しいメンバーも土・日開催なら参加できるのでは。

【第3回定例会】

- ・各論（テーマ別）での意見交換や検討を行うためのグループ編成が必要となる可能性がある。各グループへの登壇参加は可能とし、後日検討内容のすり合わせと取りまとめを行えば良いのではないかと。

【第4回定例会】

- ・30～40代の若い世代に引き継ぎたい。令和4年3月までを新メンバー発掘と育成期間にするという目標は良いと考える。

【第5回定例会】

- ・地権者の次の世代（子孫）等に声掛けを行っていただければ良いと考えているが、声かけを行う場合は同じ若手の方が声を掛けやすいのではないかと。

図：ニュースレターvol.1（P1～2）

昨年度、第10回定例会において、次回検討テーマとして、「土地利用及び機能導入の方針」とすることを決定。今回出た意見として、「現時点では決まっていない部分が多いので議論しづらいのではないか。」「振興拠点ゾーン」については、新たな視点として追加された内容が多く、地主として検討が必要。求められる役割が示された段階であり、まちの将来像がイメージできる検討は進んでいる。

上記を踏まえ、次のポイントに着目して、まちのあり方（将来像）を検討します。

検討のポイント

- 「振興拠点ゾーン」の街は、誰がつかうことを想定した空間か？
- 働く人・訪れる人・周辺に住む人は、この空間でどのように過ごすのか？
- この空間での暮らし・営みを支えるには、どのような機能が必要か？

⇒「求められる機能像」「求められる空間像」「将来像実現に必要な土地活用の手法」を検討

～令和２年度の「若手の会」検討経緯～	
経過	重要事項の検討内容
6月	今年度の開催について、産・官・学の意見をきく必要について
7月	土曜時間及び参加者の人数について
8月	土曜時間及び参加者の人数について →土曜時間決定について
9月	→土曜時間決定について
10月	会場利用及び参加者の数について
11月	会場利用及び参加者の数について
12月	会場利用及び参加者の数について（定員について） →会場費について
1月	会場費について
2月	1月に決定した検討テーマの内容を整理
3月	仮定案

振興拠点ゾーンの都市像

Education and Entertainment
働く・学ぶ・遊ぶための場づくり

- 街中で研究・実証実験等が出来る街
- 海外からの研究者も快適に働ける国際基準の街
- 異業種や仕事仲間、学生等と交流出来る街
- 研究成果や開発成果を発信する、学べる街
- 研究から文化・芸術・娯楽、飲食、買い物まで様々な用途や機能が混在し「早寝できない」街
- 周辺での暮らしも便利な街
- 沖縄健康度低炭素点と連携した街

Green Infrastructure and Local Culture
憩い・リフレッシュできる空間づくり

- 身近に多くの緑や沖縄の歴史文化を学べる機会があることで、憩い・リフレッシュできる街
- 体を動かすなどで発想を活性化させられる街
- 多くの緑や自然エネルギーを活用することで、エコでクリーンな街

Safety and Security
安心・安全な環境づくり

- 大雨・台風を始め、様々な都市災害に備えたインフラ・都市基盤（防災機能を持った公園等）がある街
- エネルギーの地産地消やみどりあふれる環境づくりにより持続性の高い街
- 災害時にも事業継続性があり、相互に助け合える街
- 夜間も安心な防犯性能の高い街

Comfortable and Convenient Space Formation
快適な移動空間の形成

- 地区内は、歩行者にやさしく、歩きやすくなる街
- 地境外から、快適にアクセスできる街
- 次世代型交通を始め、様々な移動手段の選択肢があり、それらに便利に使いこえる街
- 環境にやさしくクリーンで騒音の無い交通環境

振興拠点ゾーンの主たる利用者（ターゲット）
 （新設した沖縄県及び中部都府県間の国際ビジネス拠点、広域なライフ・サイエンス分野、健康から学術研究拠点、国・県レベルの広域行政機能の創発的なプラットフォーム）

**振興拠点ゾーンに働き・訪れ・暮らす
 『研究者/ビジネスマン・学生・観光客・周辺住民』**

**【目指すべき都市像のイメージ】
 暮らしと研究・ビジネスが一体となり新たな創造を生み出す街**

10

普天間飛行場の跡地を考える 若手の会

ニュースレター
とは

定例会に参加できなかったメンバーの方に対して、数か月分の若手の会で検討した内容をご紹介しますために発行します。

ニュースレター

Vol. 2
2021.3月発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

昨年度の第10回定例会において、次回検討テーマを「土地利用及び機能導入の方針」とすることに決定しました。
「現時点では決まっていなかった部分が多く議論しづらいが、振興拠点ゾーンについては、新たな視点として追加された内容が多く、検討が必要ではないか」というご意見もあり、今年度は特に「振興拠点ゾーン」に焦点を当てて、将来像の検討を進めています。あわせて、「若手の会の将来あるべき姿」についても検討を進めています。

第6回 定例会 (R2.11.10)

■第5回までは、振興拠点ゾーンに求める機能像について検討を行いました。これまで検討した内容を踏まえ、振興拠点ゾーンに求める空間形成の考え方について、先進地視察先の写真をもとに意見交換を行いました。



【主な意見】

- ◆普天間飛行場跡地の整備コンセプトは「平和シンボルの国際的高次都市機能」を備えた多機能交流拠点都市」と謳われている。元は米軍基地であったことが分かるように、基地の外周をサイクリングロードとして整備するなど空間形成の要素に加えても良いのではないかと。
- ◆戦争の負の遺産を残し、将来の平和学習につなげていくことが良いと考える。
- ◆普天間飛行場跡地を見渡すことができる開放的な眺望を確保。
- ◆大規模公園のような、緑に囲まれた魅力的な空間が必要だと考える。

第7回 定例会 (R2.12.8)

■第6回定例会で頂いたご意見を元に、振興拠点ゾーンに求める空間形成の考え方に「沖縄・普天間の歴史や地域性を感じる空間づくり」の項目を追加しました。



■令和3年度の検討テーマ（候補）について検討しました。

【検討テーマ候補（案）】

- 候補① 多様な機能の複合によるまちづくり
（都市拠点ゾーンや居住ゾーンについて検討）
- 候補② 土地利用需要の開拓と並行した計画づくり
「地権者の協働に向けた意向疎通の促進や、機能誘致見通しの確保にもとづく計画づくりについて検討」
- 候補③ 都市基盤整備の方針
幹線道路、鉄軌道を含む新たな公共交通軸、緑地空間、供給処理・情報通信基盤の整備について検討

【主な意見】

- ◆候補③の中には「スマートシティの形成」という項目がある。未来の都市基盤はどうなるのか関心がある。
- ◆合意形成に係る取組みが現状としては弱いと感じるため、候補②がよいと思った。
- ◆候補①と候補②は分ける必要がなく、合わせて検討することがよいのではないかと。

第8回 定例会 (R3.1.12)

■2014年度（H26年度）に作成した、若手の会提言パンフレットの更新案について検討しました。

◇パンフレットの更新内容（案）について

- ① 目指すべきまちとその具体的なイメージ（追加）
 - ・人が集まるまち
 - ・個性的で文化豊かなまち
 - ・持続的に発展可能なまち
- ② わたしたちの考え（更新）
- ③ わたしたちの歩み（更新）
- ④ 今後の活動の展望（追加）

◇パンフレットのレイアウト（案）について

更新案は現行パンフレットに2ページ分追加し、3つ折りを想定します。

レイアウト更新案（3つ折り）

【中面】		【外表紙】	
追加		追加	
① 目指すべきまちの3つの柱とその具体的なイメージ（追加）	② わたしたちの考え 目指すべきまちの実現に向けた公園、商業施設、交通、住宅の考え方（方針）（修正・更新）	③ わたしたちの歩み （平成14年～平成25年）（追加）	④ わたしたちの歩み （平成26年～令和5年） ⑤ 今後の活動の展望（追加）

【主な意見】

- ◆パンフレットは市民及び外部向けに制作するため、専門用語には注釈を記載したほうがわかりやすい。
- ◆外表紙には、新規メンバー募集等の内容も記載してほしい。
- ◆現パンフレットからデザインを変更してほしい。
- ◆平成27年以降からの更新パンフレットとなるため、平成27年度以降の写真を掲載した方がよい。

第9回 定例会 (R3.2.9)

■第7回定例会で頂いたご意見から検討テーマを決定し、スケジュール案について検討しました。

《テーマを検討するにあたっての考え方》

- ① 50年先のまちの考え方など夢のある話をして、地権者に興味を持ってもらいたい。
- ② 夢のある話とセットで、合意形成の話をするという。
- ③ 先進地視察、研究チーム、専門的な知識を持った方から学びたい。

《令和3年度 検討テーマ》

都市基盤の整備と地権者の協働について

【主な意見】

- ◆昨年度の個別意見交換会で、地権者の方々から電線の地中化について話が学ばれていた。「都市基盤整備の方針」は、跡地利用を検討する上で必要と考える。地権者も身近な課題のため意見が出やすいのではないかと。
- ◆2011年に閣議で定めたSDGs[※]と関連させながら検討することで、新たな視点が出てくるのではないかと。

※ 持続可能な開発目標。貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動のこど。

《若手の会の将来あるべき姿について》

将来あるべき姿に向け、今後どのような取組みが必要なのか継続して検討を進めています。過去の定例会で出た意見を一部ご紹介致します。

【第6回定例会】

- ・地主の目標とまちづくりの目標は異なる。まちづくりの視点と地主の視点で2つの組織にメンバーを分けて募集しても良いのではないかと。
- ・分科化の問題や方針について、考えられる方法は減した方がよい。
- ・新しい会員のみを集めてレクチャーする期間を設けても良いのではないかと。

【第7回定例会】

- ・考えるだけでなく、一人でも多くの方に声掛けし、行動することが必要である。
- ・まずは会員登録ではなく、「オンラインで会のようなものを見ていただきたい」という声かけでも良いのではないかと。あわせて、若手の会のニュースレターやふるさと、パンフレット等でオンライン参加を呼びかけると良いのではないかと。

【第8回定例会】

- ・動画チャンネルは、「若手の会定例会をオンラインで視聴することができる」という文章と、Zoomアクセス用のQRコードを記載してはどうか。

【第9回定例会】

- ・新規メンバーの勧誘を行ったが「仕事で忙しい定例会に参加が難しい」という回答が多い。今後も声掛けを継続し、メンバー勧誘に結び付けていきたい。

6) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●若手の会の考える「振興拠点ゾーンの将来像」について

- ・「全体計画の中間取りまとめ」との関連性を考慮しながら、振興拠点ゾーンの都市像をイメージし、求める機能像と空間形成の考え方について具体的な事例をイメージしながら若手の会としての考えを取りまとめる事ができた。

●若手の会の将来あるべき姿について

- ・普天間飛行場返還後における若手の会のあるべき姿について、継続して議論を進める事により意識づけを行うと共に、現時点で取組むべき若手の会の課題に対し、新規会員の勧誘等、課題解決に向けた若手の会会員の自主的な取組みに展開させる事ができた。

●検討内容の情報共有について

- ・これまでは定例会案内文に議事要旨を同封する事で検討内容の情報共有を図っていたが、今年度は新たに数か月分の検討内容についてニュースレター形式で若手の会会員全員に対して発行する事で、視覚的に分かりやすく情報を共有する事ができた。

【今後の課題】

●既存会員の掘り起こし

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、主にオンライン会議で定例会を開催した。そのため、これまで仕事等の都合で定例会会場まで訪れる事が難しかった方が参加できるようになったというメリットもあるが、オンライン会議をメインとした事により参加しなくなった方もいるものと考えられる。
今後もオンライン会議を併用した定例会は続くと思定されるため、参加しなくなった会員の掘り起こしを行い、参加人数を増やす取組みが必要である。

●次世代に繋いでいくための取組み

- ・現会員のこれまでの活動を次世代に繋ぎ、更なる発展を目指していくためにも、若手の会の将来あるべき姿について検討を継続する事で会員自身の意識づけを深めていくと共に、新会員への知識の継承方法等具体的な取組みについて、若手の会として検討を進めていく必要がある。

●地主会との連携強化

- ・将来的に地権者の意向を取りまとめていくにあたり、地主会との連携をより強化し、跡地利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。

(2) 地権者意向把握アンケートの実施

1) 取組み概要

平成 27 年度から地権者との直接的な対話の場を持つ事を目的として「字別意見交換会」を継続して実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、対話形式ではなく「普天間飛行場跡地利用計画の検討内容」及び「普天間飛行場の跡地を考える若手の会の検討内容」に関する資料を全地権者に郵送し周知を図ると共に、アンケート形式による跡地利用計画の検討内容や若手の会の考える検討内容について意見収集を実施した。

2) 実施概要

(調査対象)

- ・ 普天間飛行場の全地権者（海外在住者等を除く）

(実施時期)

- ・ 配 布：令和 2 年 11 月 9 日（月）発送
- ・ 回収期限：令和 2 年 12 月 15 日（火）消印有効

(配布・回収方法)

- ・ 郵送による資料配布及びアンケート回収
- ・ web アンケートによる回答

(配布・回収状況)

配布数	回収数	回収率
3,684 件 (内、市内 2,325、市外 1,359)	489 件 (内、web 回答 41)	13.3%

(令和 3 年 1 月 22 日集計)

3) 調査項目

項目	把握する内容
跡地利用計画の検討内容 に対する意見	・ 普天間未来予想図の内容に対する理解度 ・ 跡地利用計画づくりで重要と考える視点 ・ 振興拠点ゾーンにおいて地権者として興味のある分野
若手の会の検討内容に対する意見	・ 良い点、更なる検討が必要と考える点 ・ 若手の会の考える振興拠点ゾーンの将来像について追加で必要と考える機能
今後の地権者意見交換会 開催に関する意見	・ 開催場所、参加しやすい曜日と時間帯
その他	・ 跡地利用計画に対する自由意見

4) 調査結果

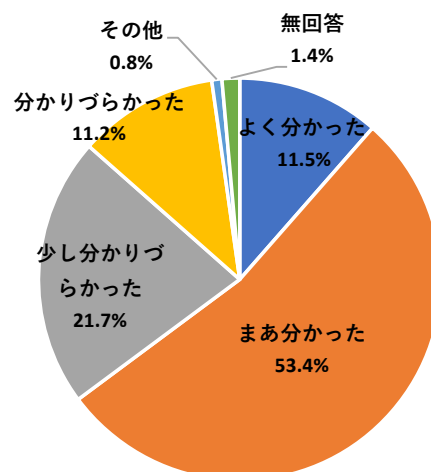
問1 普天間未来予想図について

問1-1 内容について

1. よく分かった 2. まあ分かった 3. 少し分かりづらかった
4. 分かりづらかった 5. その他

■単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
よく分かった	56	11.5%
まあ分かった	261	53.4%
少し分かりづらかった	106	21.7%
分かりづらかった	55	11.2%
その他	4	0.8%
無回答	7	1.4%
合計	489	100.0%



「分かった」、「まあ分かった」の回答が全体の約65%であり、プロモーションビデオ及びその概要説明資料の有効性が示された。しかし、「少し分かりづらかった」、「分かりづらかった」の回答も3割ほどあったことから、見やすさ及び分かりやすさについては今後も引き続き工夫して、より理解しやすい説明にする必要がある。

■その他意見（抜粋）

跡地利用計画の内容に関する意見

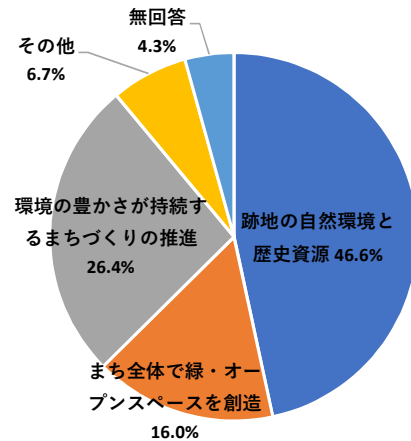
- ・どこに何が配置されるのか明確にしていきたい
- ・構想が大きすぎる、立派すぎて分かりづらい
- ・アジアの中心という考えは良い、しかし、世界の中心としての位置づけを考えるべし

問１－２ 跡地利用計画づくりで最も重要と思った考え方

- １．跡地の自然環境（緑・地形・水）と歴史資源を最大限に活用したまちづくり
- ２．まち全体で緑・オープンスペースを創造
- ３．環境の豊かさが持続するまちづくりの推進
- ４．その他

■単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
跡地の自然環境と歴史資源	228	46.6%
まち全体で緑・オープンスペースを創造	78	16.0%
環境の豊かさが持続するまちづくりの推進	129	26.4%
その他	33	6.7%
無回答	21	4.3%
合計	489	100.0%



「跡地の自然環境と歴史資源を最大限に活用したまちづくり」が最も重要という回答が、全体の約 47%であった。戦前の並松街道や緑豊かな自然環境、古来より存在する拝所や文化財等を活用する事の重要性について、地権者として一定の理解を示している事が推察できる。

■その他意見（抜粋）

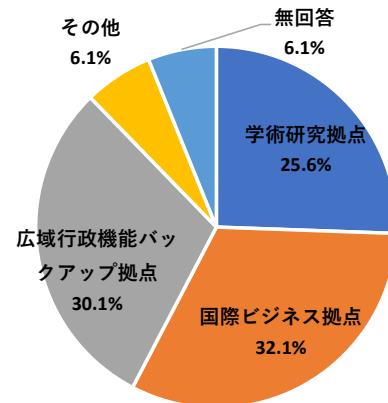
機能・施設に関する意見
・ 現計画よりもさらに大規模な、自然を活用したアトラクション施設（地下洞窟の探検ツアー、沖縄市のこどもの国のようなもの）で集客力を高めていく
・ 世界の貿易や商業施設としてのスペースも重要
・ 商業地と住宅地、緑地の３点の融合
・ 防災拠点の整備
自然環境への配慮に関する意見
・ 土壌汚染問題等、地権者に不利益を与えない対策が必要である
都市基盤整備に関する意見
・ 幹線道路、駐車場等の整備、公共交通の充実

問１－３ 振興拠点ゾーン内で最も興味のある分野

1. 学術研究拠点
2. 国際ビジネス拠点
3. 広域行政機能バックアップ拠点
4. その他

■単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
学術研究拠点	125	25.6%
国際ビジネス拠点	157	32.1%
広域行政機能バックアップ拠点	147	30.1%
その他	30	6.1%
無回答	30	6.1%
合計	489	100.0%



回答数は「国際ビジネス拠点」、「広域行政機能バックアップ拠点」、「学術研究拠点」の順に多かったが、極端に回答数の差がなかったことから、ある一つの分野に特化するのではなく各分野のバランスが取れたゾーンとしての整備が求められている事が推察できる。

しかし一方では「その他」、「無回答」も全体の12%であった。その他意見においては「立派すぎてイメージできない」という回答もあったことから、振興拠点ゾーンのイメージについては、今後より分かりやすく地権者に提示していく必要がある。

■その他意見（抜粋）

施設に関する意見
・ スポーツ施設 ・ 国際会議場、海洋動植物の研究所 ・ 病院と介護センター ・ アジアの金融拠点、国際機関の施設を誘致する
振興拠点ゾーンのイメージに関する意見
・ 実感が湧かない ・ 立派すぎてイメージできない ・ 個人として、直接そのゾーンへの関わりが持てない気がする ・ 渋滞を発生させるためやめた方がよい

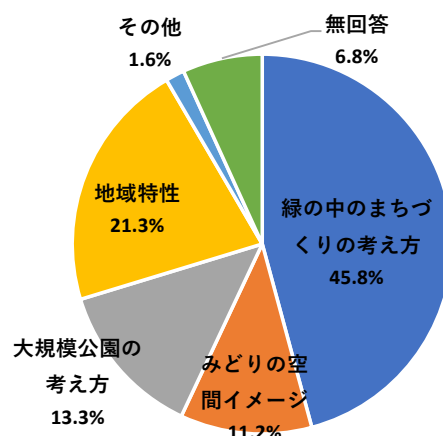
問2 若手の会を考える「環境づくりの方針」、「振興拠点ゾーンの将来像に関する「若手の会」の考え（検討中）」について

問2-1 「環境づくりの方針」で良いと思った点、さらに検討が必要と思った点

1. 緑の中のまちづくりの考え方
2. みどりの空間イメージ
3. 大規模公園の考え方
4. 地域特性
5. その他

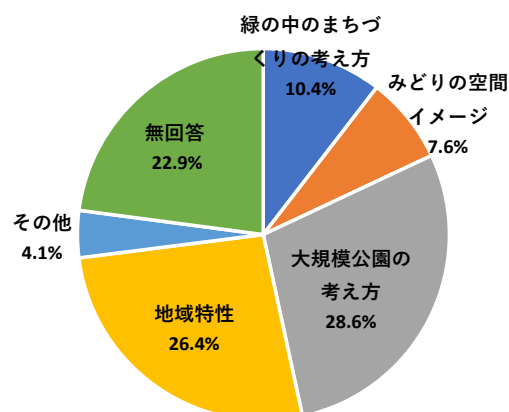
■良いと思った点 単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
緑の中のまちづくりの考え方	224	45.8%
みどりの空間イメージ	55	11.2%
大規模公園の考え方	65	13.3%
地域特性	104	21.3%
その他	8	1.6%
無回答	33	6.8%
合計	489	100.0%



■さらに検討が必要と思った点 単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
緑の中のまちづくりの考え方	51	10.4%
みどりの空間イメージ	37	7.6%
大規模公園の考え方	140	28.6%
地域特性	129	26.4%
その他	20	4.1%
無回答	112	22.9%
合計	489	100.0%



良いと思った点について、「緑の中のまちづくりの考え方」が約46%、「地域特性」が約21%という回答であった。

さらに検討が必要と思った点で最も回答が多かったのが、「大規模公園の考え方」で約29%、次いで「地域特性」が約26%であった。

地域特性について、文化財や地下洞窟等地域固有の資源活用の仕方については他計画分野とも連動するため、若手の会の今後の検討テーマとして挙げる事も考えられる。

大規模公園の考え方について、若手の会として取りまとめた事項はテーマや規模等概念に関する内容であるため、今後若手の会として具体的な整備内容、維持管理のための仕組みづくりの方法等、さらに検討を深めていく事が望ましい。

■その他意見（抜粋）

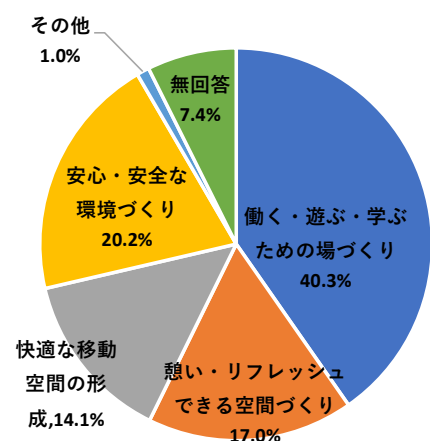
緑の中のまちづくりの考え方に関する意見
・理想に留まらず是非実現してほしい ・大多数の市民が容易に接することができる「みどりの空間」がよい ・人が集まらないようにしてほしい
大規模公園の施設に関する意見
・ウォーキングで一周できる細長い公園がほしい ・夜の公園は危険であるため、安全性に問題はないか ・国営公園で、動物園、水族館等も併設した公園がよい ・遺跡を移動させるのはナンセンスである ・並松街道の復元を実現させてほしい
維持管理に関する意見
・緑地や樹木の維持管理を実行できる（体制）仕組みづくりは重要 ・維持費等が莫大にかかる

問２－２ 「振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え（検討中）」について、良いと思った点、さらに検討が必要と思った点

- 働く・遊ぶ・学ぶための場づくり
- 憩い・リフレッシュできる空間づくり
- 快適な移動空間の形成
- 安心・安全な環境づくり
- その他

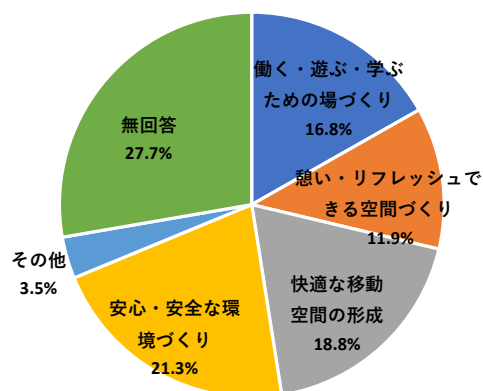
■良いと思った点 単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
働く・遊ぶ・学ぶための場づくり	197	40.3%
憩い・リフレッシュできる空間づくり	83	17.0%
快適な移動空間の形成	69	14.1%
安心・安全な環境づくり	99	20.2%
その他	5	1.0%
無回答	36	7.4%
合計	489	100.0%



■さらに検討が必要と思った点 単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
働く・遊ぶ・学ぶための場づくり	82	16.8%
憩い・リフレッシュできる空間づくり	58	11.9%
快適な移動空間の形成	92	18.8%
安心・安全な環境づくり	104	21.3%
その他	17	3.5%
無回答	136	27.7%
合計	489	100.0%



良いと思った点については、「働く・遊ぶ・学ぶための場づくり」が最も多く約 40%、次いで「安心・安全な環境づくり」の約 20%であった。

地権者からの意見としても、単なるオフィスや研究施設等の集積だけでなく、緑あふれる環境づくりや安全面への配慮も加味したゾーンである事が求められているものと推察できる。

さらに検討が必要と思った点について、「無回答」が最も多かった事、また、その他意見の中でも「抽象的でイメージがわからない」という意見があった。今年度の若手の会では、求められる機能と空間形成の考え方に関して検討、取りまとめを行っている事から、このような回答傾向になったものと考えられる。

今後の跡地利用計画の検討状況を踏まえ、しかるべき時期に改めて振興拠点ゾーンの内容に関する検討を定例会で行う事が望ましいと考えられる。

■その他意見（抜粋）

振興拠点ゾーンの将来像に関する意見
・理想に留まらず是非実現してほしい ・他自治体との連携も考え、機能を独占しない方がよい ・抽象的すぎてイメージがわからない ・立派すぎて分からない

問２－３ 「振興拠点ゾーンの将来像」について、追加で必要と思う機能（記述式）

■意見（抜粋）

機能に関する意見
・那覇市・北谷町・沖縄市は商業施設を中心とした開発であるため、競合しない国際ビジネス拠点などがよいと思う ・沖縄は地震災害が少ないことからバックアップシステムを期待していると窺えるが、それに則した関連事業、災害リスクを考慮した安全管理体制施設などは最も重要な分野と思う ・この計画では公園や緑地に重点を置いているが、沖縄の中心地として商業施設に重点を置き、ポスト香港を目指してはどうか。外国の人が自由、安全に滞在できれば、ウォール街を抜くのも夢ではない ・医療、福祉をさらに充実させ、公共交通機関にも配慮する必要がある ・アジアのハブとなる IT、金融、国際機関の誘致を積極的に行い、ヒト、モノ、カネの集約を図る ・学術都市を目指し、将来の人材育成の視点から、小、中、高、大学の学校づくりをこのプロジェクトに盛り込んでいただきたい。人材育成こそ、このプロジェクトの目玉にしていきたい ・大学の学術研究や、学生の将来を助けるような施設があってもよいのではないか ・普天満宮、森の川などの観光についても強化してほしい ・まだまだイメージがわきづらい ・もっと分かりやすく、訴える表現がほしい
その他意見
・おもろまちや小禄金城、ライカムとどのような部分が共通し、異なるか一覧で比較してもらえるとイメージしやすい。今の振興拠点の将来像は概念であり、イメージしづらい ・「新たな経済活動の展開にふさわしい場」とあるが、具体的な事例や課題の把握等について知りたい ・道路、公園などの公共用地にかかる土地以外は、地主に住宅地として返還していただきたい

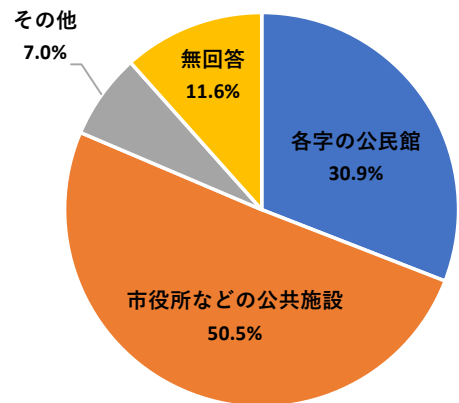
問3 今後の、地権者との意見交換会の開催の仕方について

問3-1 どのような会場で開催すればよいか

1. 各字の公民館 2. 市役所などの公共施設 3. その他

■単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
各字の公民館	151	30.9%
市役所などの公共施設	247	50.5%
その他	34	7.0%
無回答	57	11.6%
合計	489	100.0%



市役所などの公共施設での開催を希望されている方が最も多く、約50%であった。また、その他意見の中でオンラインでの開催という回答もあり、市外・県外居住の地権者への対応のあり方についても、今後検討していく必要がある。

■その他意見（抜粋）

- ・駐車場が広い場所（他2件）
- ・オンラインでの開催（他11件）
- ・今回のアンケートのように、広く意見を聞く（他2件）
- ・個々に意見を伺う

問3-2 参加しやすい曜日、時間帯

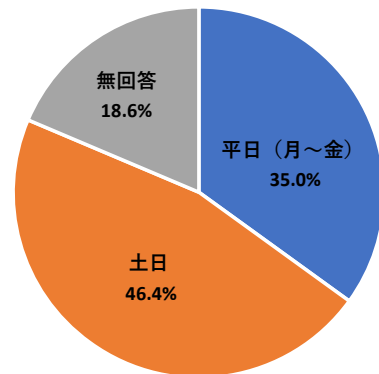
1. 各字の公民館 2. 市役所などの公共施設 3. その他

曜 日→ 1. 平日（月～金） 2. 土日

時間帯→ 1. 午前中 2. 午後 3. 夜間

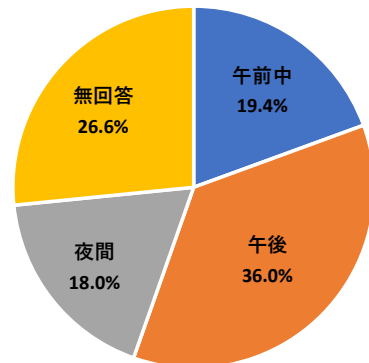
■曜日 単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
平日（月～金）	171	35.0%
土日	227	46.4%
無回答	91	18.6%
合計	489	100.0%



■時間帯 単純集計 N=489

回答	回答数	構成比
午前中	95	19.4%
午後	176	36.0%
夜間	88	18.0%
無回答	130	26.6%
合計	489	100.0%



曜日については土日、時間帯は午後が最も多かった。

また、時間帯については午前中という回答もあったことから、開催時間については平日昼間、休日午前中の開催も視野に入れ、これまで参加されていなかった（参加できなかった）地権者への周知も検討する必要がある。

■その他意見

・常にいつでも、どこでもをモットーに考えてもらいたい

問4 普天間飛行場跡地利用計画に対する意見（記述式）（抜粋）

合意形成に関する意見
・ 今後、返還が決定されれば跡地利用に対して地権者の合意形成が重要となってくる。今から地権者（地主）一人一人が返還について学び、跡地利用やまちづくりの知識を十分なものにして行く事が重要なことと感じる。 ・ 地主との合意形成が重要と思うが、地権者の理解を得るためにはどうしたらいいか、検討課題の一つであると思う。
情報発信に関する意見
・ 市民への広報が重要と思われる。IT による発信と合わせて文字の発信、分かりやすい情報発信が必要である。
跡地利用計画に関する意見
・ ある程度行政主導で決断し、それに沿った民間活力を利活用する方が、トラブルが少ないと思う。民間や地権者のみで主体的に行わせると、互いに責任転嫁する傾向にあり、進行に遅れが生じると思う。 ・ 個人的な考えとしては、辺野古の海を破壊するくらいなら普天間飛行場の移設は望まない。資料の中にあった、「みどりの空間イメージ」は憩いの場にもなりそうであるが、一方で小さな子供や動物に対する犯罪の場にもならないかと懸念である。 ・ 将来像は大枠想像できたが、具体例などがあれば理解が深まると思う。 ・ 各種拠点を設けて、それぞれの環境整備を整えていくのはよいが、そうする事により普天間飛行場周辺の環境はどのように変化していくのか、又は発展の可能性はあるのかなども、ビジョンを含めて検討いただきたい。 ・ 跡地利用だけではなく、周辺との連携やそのことに伴い周辺施設、周辺住民にどのようなメリットがあるのかも検討いただきたい。 ・ 若者が仕事できる、活気のある場所、未来に残せる都市づくりを行っていただきたい。 ・ 沖縄県の観光のメインになるような施設の誘致も検討いただきたい。 ・ 県庁を宜野湾市に移転させ、高速道路やモノレール等を整備して沖縄全体での移動手段を考えてはどうか。 ・ 宜野湾市内の文化施設をまとめる、あるいは増やせないか。 ・ ヨーロッパや北米を中心に人々を集めているリゾート施設である、「Wavegarden」を誘致してはどうか。

都市基盤整備の内容に関する意見
・道路幅員は広めに。なるべく赤瓦屋根などを中心とした住宅地とし、それを受け入れる人を優先すべき。 ・公共交通の導入、高齢者も行きたくなるような町がよい。また、他市町村からも来やすいようにモノレール等の整備がされればよい。 ・市内をひと周りする、市内周遊バスが通るような市内一周道路はどうか。 ・普天間飛行場内にある自然はなるべく残して利用していただきたい。 ・墓地、御嶽等については地権者と良く協議し、将来を見据えて公園型にした方がよいのではないか。 ・浦添運動公園のような、安全で緑豊かで市民が時間をあまり気にする事なく利用できる運動公園が欲しい。 ・大規模公園が必要かどうか分からない。中規模程度でよいと思う。公共用地に多くの面積を取られ、自分の土地が大きく減るのは嫌である。十分な住宅地が必要と思った。
減歩に関する意見
・最大の関心は、減歩がどの程度で、実際に使える宅地面積が残るかということである。過少宅地は土地活用ができなくなるのではと心配である。その地に戻って住みたい人に対しては、必要宅地面積が残されるように配慮した計画としていただきたい。
その他（質問等）
・広大な面積を占めている滑走路を具体的にどう活用するか知りたい。 ・地下資源の活用、開発の考え方はないか。 ・ゆとりと緑のある住宅地（広々とした敷地）とあるが、どの位の土地があれば住宅を建てることができるか。又、現在の面積が整備後どの位の面積になるのか。希望すれば地主は全員、土地を活用して家を建てることのできるのか。 ・所有地が墓地で、墓としてそのまま使用したいと考えているが、そういった個人の考えは考慮されるのかどうか心配である。ぜひ、個人の考え方を尊重いただきたい。 ・そもそも「若手の会」とは何歳くらいの集団で、どのように選出され、どのような属性の人たちなのか、また、何名なのか知りたい。 ・それぞれの開発に要する費用と財源はどうするのか。（他２件） ・地権者に対するケア、協力するメリットはあるのか。 ・誰の土地で開発を進めるのか。地権者の収益はどうなるのか。開発後の収益はどれ位なのか。様々な数値を提示していただきたい。地権者のメリットがない時は、誰が補償するのか。集まることができない人達のために、web にて回答してほしい。 ・県外在住のため意見交換会に参加できないが、オンライン会議なども検討してよいのではないか。

5) 総評

問1 普天間未来予想図について

跡地利用計画づくりにおいて最も重要と思った考え方として、「跡地の自然環境と歴史資源を最大限に活用したまちづくり」が約47%と最も回答数が多く、2番目に回答数が多かった「環境の豊かさが持続するまちづくりの推進」の約26%と大きく差が開いた。まちづくりを進めるにあたり、残されている自然と地域独自の歴史資源の活用が重要な役割を果たす事について、地権者としてもある一定の理解を示している事が、今回のアンケート結果から推察される。

しかし振興拠点ゾーンについては、「学術研究拠点」、「国際ビジネス拠点」、「広域行政機能バックアップ拠点」の3種類共に回答数の極端な差がなかった事から、各分野のバランスが取れたゾーンとしての整備が求められている事が推察できる。今後、跡地利用計画の内容がより具体化していく中で、適切な時期に改めて地権者の意向を確認する事が望ましい。

問2 若手の会の考える検討内容について

若手の会が令和元年度に検討した「環境づくりの方針」、令和2年度の検討途中段階である「振興拠点ゾーンの将来像」の2種類について地権者からの意見を収集した。

まず「環境づくりの方針」については、「地域特性」の部分において他計画分野とも連動する文化財や地域固有の資源活用の仕方、「大規模公園の考え方」においてはより具体的な整備内容や維持管理のための仕組みづくりの方法等、今後の検討テーマを設定する上での参考となる事項が地権者の意見から収集できた。

次に「振興拠点ゾーンの将来像」については、単なるオフィスや研究施設等の集積だけではなく、緑や安全面への配慮等多様な機能を持ったゾーンが求められている事が推察できる。

今年度は求められる機能と空間形成の考え方に関する検討であったため、今後改めて振興拠点ゾーンの内容に関する検討を行い、地権者の意向を伺う事が望ましい。

問3 意見交換会の開催方法

開催場所については、「市役所などの公共施設での開催」を希望する回答が半数あり、「各字の公民館」の回答よりも多かった。これまで毎年3箇所程度で意見交換会を実施しているが、当該地域に居住されていない地権者は、他の字の公民館には行きづらい傾向があったと推察される事から、「公共施設での開催」の方が居住されている地域に関わらず気軽に参加できると考えられる。

今後はオンライン会議の併用等、市外・県外在住のために来場が難しい方にも対応可能な手法の検討が必要である。

さいごに（アンケート形式による意見収集について）

今回はアンケート形式で意見収集を行うため、普天間未来予想図（プロモーションビデオ）の内容を資料として同封すると共に、動画サイト（YouTube）に動画を掲載した。合わせて、アンケート用紙による回答だけではなく、webフォームによる回答も受け付け、41件

の web 回答を得る事ができた。

これまでの地権者意見交換会の参加人数は最大 122 名（平成 28 年度実施）であったが、今回のアンケート形式による意見回収数は 489 件であり、対話形式よりも多くの回答が得られた。対話形式では日時や時間帯の制約がある事から、今回のアンケート形式による意見収集は、参加したくとも参加できない地権者の意見についても一定数汲み取る事ができたものと考えられる。

しかし、パソコンやスマートフォンの活用が難しく、紙面でしか情報を得る事ができない地権者にとっては、これまでの対話形式の方が情報を伝えやすい場合もある。

また、紙面では掲載するスペースが限られている事から、検討内容を絞り込んで掲載しておく必要がある。

これらの事が、普天間未来予想図の内容の分かりやすさについて約 3 割が「少しわかりづらい」、「分かりづらい」という回答傾向となった一因であると推察される。

対話形式とアンケート形式、それぞれ手段として一長一短があるが、今後も継続して地権者と意見交換会を開催していく事は必要であるため、双方の長所を活かした意見交換会のあり方についても今後検討し、より多くの地権者に対する周知と意見収集が可能なように取り組む必要がある。

6) 配布資料、アンケート回答用紙 (配布資料)

普天間未来予想図 PV(プロモーションビデオ)の制作 資料①

■PV制作のねらい: 世界に誇れる付加価値の高いまちを創造することと、揺るぎないまちづくりの方向性の要点をお伝えすることを目的に制作しました。

○「中間取りまとめ」以降の検討経過

沖縄の中心に位置する普天間飛行場跡地は、アジアの中心に！

幹線道路や公共交通軸(鉄軌道)のアクセラートを更新

2013年 中間取りまとめ
2019年 更新案

土地利用や緑の配置・あり方を検討

更新案

○「揺るぎないまちづくりの方向性」

跡地の自然環境(みどり・地形・水)と歴史資源を最大限に活用したまちづくり

公共・民間枠を超えて、まち全体で緑・オープンスペースを創造

公民連携手法や最先端技術を導入し、環境の豊かさが持続するまちづくりを推進

スマート社会

普天間飛行場の価値や先進性が高まり、質の高い暮らしが実現可能なまちづくりを推進する。

裏面に普天間未来予想図PVの簡略版を載せていますのでご覧ください。

① 普天間飛行場跡地利用計画では、緑、地形、水、歴史をベースとしたまちづくりを検討しています。

② 鉄軌道や幹線道路がまちを結び、さまざまなゾーンを緑でつなぎ、沖縄の中心となることを目指しています。

③ アジアの経済発展の中心になるという未来を考え方に加えしました。

④ 世界中から集まる人たちが活動しやすいまちになるよう、交通アクセスの検討を進めています。

⑤ 産業を生み出すゾーンにおいては、西普天間住宅地区跡地などのつながりを持たせた「学術研究拠点」

⑥ 沖縄県の新たな業務拠点となる「国際ビジネス拠点」

⑦ 防災を支援する「広域行政機能バックアップ拠点」を目指しています。

⑧ 跡地に残る歴史・文化資源は、緑のネットワークでつながるイメージです。

⑨ 最も期待されているのが、皆でまち全体をつくり、育てていく「みどりの中のまちづくり」です。

⑩ 緑、水、歴史を活かしたまちの考え方を最先端技術と組み合わせ、持続可能なまちづくりにつなげていきます。

⑪ 「みどりの中のまち」では、屋上緑化や涼しい風を取り入れるなど、緑を活かした工夫をしたり、

⑫ 最先端技術を取り入れて、例えば一年中省エネで快適な暮らしができることが考えられます。

⑬ 新しい技術や社会の変化を柔軟に取り入れ、便利さと自然の豊かさが持続するまちを目指しています。

⑭ 市民・企業・行政が一体となった「みどりの中のまちづくり」を目指していきます。

⑮ ここからこそできるまちを目指して、普天間飛行場跡地の未来を皆で考えていきましょう。

配布資料① 普天間未来予想図



(1/2ページ)

- 上記を踏まえ、次のポイントに着目して、まちのあり方（将来像）を検討します。

⇒「求められる機能像」「求められる空間像」「将来像実現に必要な土地活用の手法」を検討

配布資料② 若手の会の考え (P1~2)

振興拠点ゾーンの都市像

振興拠点ゾーンは、定例会でのご意見を踏まえ、産業集積地として、「オフィスや研究施設が集積する地域だけ」ではなく、「働く人、訪れる人、暮らす人が交流し、楽しめる街であること」を基本的な考え方として将来都市像を描く



2-3 「振興拠点ゾーンの将来像」について、追加が必要と思う機能などがあればご意見をお聞かせください。

問3. 今回は、新型コロナウイルス感染症を考慮して地権者の皆さまとの意見交換会は開催できませんでしたが、今後も引き続き皆さまのご意見をお伺いする場を設ける予定です。
そこで、今後の開催の仕方についてご意見をお聞かせください。

3-1 開催するにあたり、どのような会場で開催すればよいと思いますか。(該当する番号に○を付けてください)

1. 各町の公民館 2. 市役所などの公共施設 3. その他()

3-2 参加しやすい曜日と時間帯はいつですか。(該当する番号それぞれに○を付けてください)

曜 日 → 1. 平日 (月～金) 2. 土日
 時間帯 → 1. 午前中 2. 午後 3. 夜間

問4. 普天間飛行場跡地利用計画に対するご意見があればお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
 ご記入が済みましたら、本アンケート紙を同封の返信用封筒に封入し、切手は貼らずに
12月15日(火)までにご投函頂けますようお願いいたします。

お手数ですが以下のアンケートにお答えください

問1. 普天間未来予想図（資料①）について、ご意見をお聞かせください。

1-1 内容について（該当する番号に○を付けてください）

1. よく分かった 2. まあ分かった 3. 少し分りづらかった
4. 分りづらかった 5. その他 ()

1-2 跡地利用計画づくりで最も重要と思った考え方（該当する番号に○を付けてください）

1. 土地の自然環境（緑・地形・水）と歴史資源を最大限に活用したまちづくり
2. まち全体で緑・オープンスペースを創造
3. 環境の豊かさが持続するまちづくりの推進
4. その他（ ）

1-3 振興拠点ゾーン内で最も興味のある分野（該当する番号に○を付けてください）

1. 学術研究拠点 2. 国際ビジネス拠点 3. 広域行政機能バックアップ拠点
4. その他（ ）

問2. 若手の会を考える「環境づくりの方針」、「振興拠点ゾーンの将来像に関する「若手の会」の考え（検討中）」（資料②）について、ご意見をお聞かせください。

2-1 「環境づくりの方針」で、良いと思った点、さらに検討が必要と思った点（それぞれについて、番号をお書きください）

1. 線の中のまちづくりの考え方
2. みどりの空間イメージ
3. 大規模公園の考え方
4. 地域特性
5. その他 ()

良いと知った点

さらに検討が必要と思った点

2-2 「振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え（検討中）」について、良いと思った点、さらに検討が必要と思った点（それぞれについて、番号をお書きください）

1. 働く・遊ぶ・学ぶための場づくり
2. 憩い・リフレッシュできる空間づくり
3. 快適な移動空間の形成
4. 安心・安全な環境づくり
5. その他（ ）

良いと思った点

さらに検討が必要と思った点

裏面に続きます

7) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●複数の媒体を活用した地権者意見の収集

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からアンケート形式で意見収集を行ったが、紙面に加え web フォームによる回答の受け付けや、動画サイトに普天間未来予想図（プロモーションビデオ）を掲載する等、複数の媒体を活用する事により、直接会場まで来場する事が難しい地権者からも跡地利用計画の検討内容に対する意見を一定数収集できた。

●回答数について

- ・アンケート形式による意見回収数は 489 件であり、これまでの対話形式よりも多くの回答が得られた。今回のアンケート形式による意見収集で、参加したくとも参加できない地権者の意見について一定数汲み取る事ができた。

【今後の課題】

●より多くの地権者に対する周知と意見収集について

- ・アンケート形式では意見交換会等に参加できない地権者の意見を汲み取る事が可能だが、パソコンやスマートフォンの活用が難しく、紙面でしか情報を得る事ができない地権者にとっては、これまでの対話形式の方が情報を伝えやすい場合もある。また、対話形式の方が、より深い地権者の考えや思いを伺う事ができると考えられる。
このように対話形式とアンケート形式は、それぞれ手段として一長一短がある。そのため、双方の長所を活かした意見交換会のあり方についても今後検討し、より多くの地権者に対する周知と意見収集が可能のように取り組む必要がある。
また、今後もアンケート形式を採用する場合は、回収率向上の更なる工夫を行い、より多くの地権者からの意見を収集する必要がある。

●市外・県外在住者からの意見収集手法について

- ・自由意見に、市外・県外在住のために参加できない地権者への対応として、「オンライン会議の開催」や「質問に対する web 上での回答」という意見が挙がっていた。今後はオンライン会議の併用等、市外・県外在住のために来場が難しい地権者にも対応可能な手法の検討が必要である。

(3) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行

1) 取組み概要

跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供を目的として、地権者支援情報誌「ふるさと」を作成し、発行した。

2) 情報発信の内容

回 数	発送時期	主な掲載内容
第 52 号	令和 3 年 3 月	○報告事項 ・ アンケートの概要報告 ・ 若手の会活動内容

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●跡地利用に関する情報発信について

- ・ 全地権者に対して跡地利用に関する行政・若手の会の取組みについての情報を発信する事ができた。
- ・ 紙面に二次元コードを掲載して掲載内容に対する意見を伺うようにする事で、今後の「ふるさと」の紙面構成及び内容の改善点を把握できるようにした。

【今後の課題】

●見やすさ及び分かりやすさの工夫について

- ・ 今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、対話形式による地権者意見交換会をアンケート形式に変更して意見収集を行ったりイベントの開催を中止する等、対話、対面形式による取組みを極力減らす形で業務を進める事となった。今後も同様、対話、対面形式での取組みが減る事が想定されるため、地権者への情報支援ツールとして「ふるさと」の重要性は非常に高いといえる。そのため、紙面の見やすさ、分かりやすさについては更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるよう努める必要がある。

アンケートで頂いた主な意見

振興拠点ゾーンの将来像

- 沖縄の中心地として商業施設に重点を置き、ホスト音港を目指してはどうか。外国人の人が自由、安全に滞在できれば、ウォール街を抜くのも夢ではない。
- 宇都都市を目標し、将来の人材育成の拠点から、小、中、高、大学の学校づくりをこのプロジェクトに盛り込んでいただきたい。人材育成こそ、このプロジェクトの目玉にしていただきたい。
- 医療、福祉をさらに充実させ、公共交通機関にも配慮する必要がある。

都市基盤整備の内容に関する意見

- 公共交通の導入、高齢者も行きたくなくなるような町がよい。
- 普天間飛行場内にある自然はなるべく残して利用していただきたい。
- 市内をひと回りする、市内周遊バスが通るような市内一周道路はどうか。
- 浦添運動公園のような、安全で緑豊かで市民が憩間をあまり気にする事なく利用できる運動公園が欲しい。

アンケートを振り返って

今回はアンケート形式で皆さまのご意見を伺い、これまでの対話形式よりも多くの意見を頂くことが出来ました。
今後も、対話形式とアンケート形式、双方の長所を活かし、継続して皆さまのご意見を伺っていきます。ご協力のおかげで宜しくお願ひ申し上げます。

「ふるさと」に対する感想、ご意見をお聞かせください

- より分かりやすい情報誌にするため、「ふるさと」に対する皆様のご感想、ご意見をお聞かせください。
- 右記 QR コードまたは URL より回答フォームへアクセスしてご回答ください。



土地先行取得事業を実施しています

宜野湾市と沖縄県では、普天間飛行場返還後の跡地において、新たな住みよいまちづくりを進めることを目的に、返還前の早い段階から公有地（学校用地、道路）を確保するため、「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法（以下、「跡地利用推進法」という。）」に基づく土地先行取得事業を実施しています。詳しくは市ホームページをご覧ください。

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野高一丁目1番1号
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022
情報収集や跡地利用に係る要望、ご意見を述べる場としてお気軽にご利用ください。



地権者支援情報誌
ふるさと
2021 March 発行

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に関する最新情報をお伝えします。

地権者意見交換会に代わる跡地利用計画に関するアンケートを実施しました。

これまで、米軍普天間飛行場の地権者の皆さまを対象とした意見交換会を実施してまいりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、アンケート形式により皆さまの普天間飛行場跡地利用計画に対するご意見などを伺いました。結果概要について一部ご紹介いたします。

（実施期間）

- ・配 布：令和2年11月9日（月）発送
- ・回収期限：令和2年12月15日（火）消印有効

（配布・回収方法）

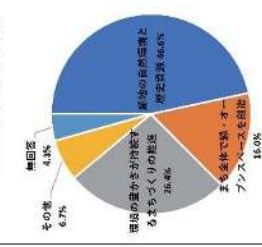
- ・郵送による資料配布及びアンケート回収
- ・Webアンケートによる回答

（配布・回収状況）

配 布 数	回 収 数	回 収 率
3,684 件	489 件	13.3%
(内、市内2,325、市外1,359) (内、Web回答41)		

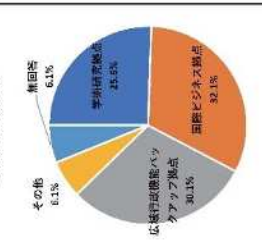
（アンケート結果 抜粋）

問1-2 跡地利用計画づくりに最も重要と答えた考え方



「跡地の自然環境と歴史資源を最大限に活用したまちづくり」と回答された方が約半分以上を占めており、軌道の並走街道や緑豊かな自然環境、古来より存続することの重要性について、一定の理解が示されています。

問1-3 振興拠点ゾーン内で最も興味のある分野



ある一つの分野に特化するのではなく、各分野のバランスが取れたゾーンとしての整備が求められていることが分かります。

問3-1 (今後の地権者との意見交換会の開催方法について) どのような会場で開催すればよいか



市役所など公共施設での開催を希望されている方が最も多く、約半数でした。
また、その他意見の中でオンラインでの開催というご意見もありました。

アンケート結果のつづきは裏面をご覧ください。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.52(表面)

普天間飛行場の跡地を考える **若手の会** の活動内容

若手の会とは？

- ・普天間飛行場跡地利用に向けた地主側の組織として、普天間飛行場返還後のまちづくりをけん引する人材の育成と若い世代の意向把握を目的として平成14年に発足しました。
- ・跡地利用について地権者の立場で検討し、意見を発信する場として活動しています。

《令和2年度の活動概要》

- ・普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた検討の中で、「土地利用及び機能導入の方針」のうち、「振興拠点ゾーン」について検討しました。
- ・将来的な組織のあり方についての検討を行いました。

振興拠点の将来像に関する「若手の会」の考え（都市像、空間形成の考え方）

検討を進めるにあたってのポイント

- 「振興拠点ゾーン」は、誰がつかうことを想定した空間か？
 - 動く人・訪れる人・周辺に住む人は、この空間でどのような生活をするのか？
 - この空間での暮らし・営みを支えるには、どのような機能が必要か？
- ⇒「求められる機能像」「求められる空間像」「将来像実現に必要な土地利用の手法」を検討

振興拠点ゾーンの主たる利用者（ターゲット）

- ① 新たな沖縄県及び中部都市圏の国際ビジネス拠点
- ② 様々なライフ・サイエンス分野、緑豊かな学術研究拠点
- ③ 国・県レベルの広域行政機能の副次的なバックアップ拠点

振興拠点ゾーンで働き・訪れ・暮らす
 『研究者／ビジネスマン・学生・観光客・周辺住民』

【目指すべき都市像のイメージ】

暮らしと研究・ビジネスが一体となり新たな創造を生み出す街

Education and Entertainment **働く・学ぶ・遊ぶための場づくり**

- 街中で研究・実証実験等が出来る街
- 海外からの研究者も快適に働ける国際基準の街
- 商業棟や仕事仲間、学生等と交流出来る街
- 研究成果や開発成果を発信する、学べる街
- 研究から文化・芸術・娯楽、教育、買い物まで様々な用途や機能が混在し「事理でない」街
- 周辺での暮らしも便利な街

Mobility **快適な移動空間の形成**

- 公共交通の利便性が高く、歩行者に優しい街（トランジット地域）
- 地域から、快適にアクセスできる街
- 次世代型交通を始め、様々な移動手段の選択があり、それを容易に利用できる街
- 環境にやさしくグリーンで騒音の無い交通環境

Green Infrastructure and Local Culture **憩い・リフレッシュできる空間づくり**

- 身近に多くの緑や水辺の歴史文化を享受する機会があることで、憩い・リフレッシュできる街
- 体を動かすなどで発汗を促進化させられる街
- 多くの緑や自然エネルギーを活用することで、エコでグリーンな街

Resilience **安心・安全な環境づくり**

- 大雨・台風を始め、様々な都市災害に備えたインフラ・都市景観
- エネルギーの地産地消やグリーン調達より持続性の高い街
- 災害時に必要な機能があり、相互に助け合える街
- 夜間も安全な防犯性の高い街

公共空間も民有地も連続的に活用できる空間づくり 公園内や道沿地にカフェのオーブンテラス高が設けられる等、公共／民有の空間がボーダレスに活用される街 	視点を定めて、開放的な眺望を確保する空間づくり 高台から開放的な眺望や海を眺められる眺望地を確保し、良好な景観及び開放的な空間がある街 	人の回遊性を高め、まちなかを歩きやすい空間づくり 歩行者に優しく、緑が多く、歩きやすい工夫・仕掛けが施された街 	沖縄・普天間の歴史や地域性を感ずる空間づくり 随所に沖縄や普天間の歴史性・歴史・文化を感じることが出来る街 
公園内に多数の店舗があり飲食も楽しめる 	高台からの開放的な眺望 	散策路は、緑あふれ、歩きやすい空間 	街なかに残る歴史ある建物を活用 
オープンカフェは、まち全体を楽しみ見せる 	鉄道駅が賑わいと開放的な空間が広がる 	運動したい気分になる工夫 	地域の象徴となる通りの再現 
商業施設と連携したイベント広場 	公園に隣接した高層ビルは目を引き 	民地を開放しマンション住民以外の人も自由に歩ける 	馬場の歴史 

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.52(中面)

(4) 若手の会パンフレット（更新版）の作成

1) 取組み概要

若手の会として、地権者意見交換会等対外的な場における活動内容の周知を行うにあたり平成 26 年度に活動内容パンフレットを制作したが、その後の若手の会の検討内容等を反映させるため、パンフレット内容の更新を行った。

なお、構成については若手の会定例会の議題として取り扱い、若手の会からの意見を反映させたパンフレットとした。

2) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●若手の会の最新検討内容を周知するツールの完成

- ・若手の会の最新の検討内容まで取りまとめる事で、対外的な場で若手の会の考え等を誰でも容易に知る事ができるツールが完成した。

【今後の課題】

●パンフレットを活用した若手の会の活動周知方法

- ・現在、地権者意見交換会や先進地視察会等の対外的な場において、パンフレットを活用して若手の会の発足経緯や検討内容等の説明を行っているが、更なる有効なパンフレット活用手段を検討し、若手の会の活動内容周知に繋げていく必要がある。

わたしたちの考え。

【若手の会が考える普天間飛行場跡地の目指すまち】

●人が集まるまち

経済効果を上げるためには、人が集まる仕組みを考える。

人が集まるまちに必要な要素イメージや、課題について検討しました。(令和2年度)

【振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり】

- 振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり
- 振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり
- 振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり
- 振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

●個性で文化豊かなまち

地域特有の歴史資源や文化を活用し、まちの資産価値を高めることで観光客や移住者、常泊客などを呼び込み、まちの価値を高める仕組みを考える。

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

振興・まちづくりの観点から考えるまちづくり

●持続的に発展可能なまち

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちびらきをした後も、時間の経過と共に衰退しないまちを考える。

まちの魅力をより高める

図：若手の会パンフレット更新版(中面)